

大分県

大分県福祉保健部健康対策課

1. 大分県の概要

大分県は、九州の北東部に位置し、総面積は約6,340 km²、人口は約118万人(平成26年3月1日現在)です。18市町村(14市3町1村)から構成され、二次医療圏は6圏あり、地域がん診療連携拠点病院は7医療機関、県指定のがん診療連携協力病院は1医療機関となっています。

また、大分県は、別府温泉や由布院温泉など、全国的にも有名な温泉地を有し、源泉数・湧出量ともに全国一であることから、「おんせん県おおいた」として、全国にPRしています。

2. 大分県の地域がん登録事業のはじまりについて



本県の地域がん登録事業の開始は、平成23年4月からで、全国的にも遅い時期での事業開始となりましたが、今年度で4年目を迎えることとなりました。

【当時の担当者Aさん談】

本県の地域がん登録事業は、県内の16の地域医師会に担当者が出向き、まだまだ認知度の低かった地域がん登録の制度の説明を行うことからその取り組みが始まりました。各医師会の会議等の開催時にあわせて無理を承知をお願いして、15～30分程度の説明の時間をいただいたのですが、医師会の会議は診療終了後の夜に開催されることが多く、地域がん登録と聞くと、当時、夜の医師会廻りをしたことが思い出されます。

3. 地域がん登録室の紹介

地域がん登録室は、大分県庁別館4階の福祉保健部健康対策課にあり、標準DBSを導入し、直営で登録事業を実施しています。

登録室の体制は、健康対策課長を兼務する地域がん登録室長(医師)をはじめ、専任の保健師1名(非常勤嘱託職員)と事務職員2名(臨時職員)、そして、兼務職員の健康対策課職員3名(医師及び保健師、事務職員)で登録業務に取り組んでいます。

届出票の提出状況は、年間約1万件弱であり、登録開始から現在までの届出件数は、32,940件(平成26年6月末現在、2009年～2014年診断例の合計)、死亡小票の届出件数は、年間約1万4千件となっています。

また、2011年診断例については、集約・統計の作業がほぼ完了しており、死亡小票のみによる把握分(DCO)も多く、より精度を高めるために昨年度末に遡り調査を実施し、現在、その入力・集計作業を進めているところです。



おんせん県おおいた



地域がん登録室のスタッフ

【事業開始時からの担当者Bさん談】

地域がん登録を担当する前から、大分県はがんの死亡率が低いと聞いていましたので、自分の担当している地域がん登録の集計結果により、その実態が明らかになるのではないかと楽しみにしています。死亡率が低いのは、実際に、本県のがん罹患患者が少ないのか、あるいは病院の治療成績がよいのか、もしかしたら、本県の食べ物が良いからなのか??などと、いろいろと想像しています。

4. 現状と課題

本県では届出票の約70%弱が、がん診療連携拠点病院や県指定のがん協力病院からの提出であり、引き続き今後も、がん拠点病院以外の医療機関から届出の協力をさせていただくことが必要であると考えています。

また、特定臓器の症例の件数が少ない傾向があるものと思われ、特定臓器のがんを専門的に治療している医療機関からの届出が課題であると思います。

本県では、今年度、2011年診断例について、国立がん研究センターへ全国がん罹患モニタリング集計用データを提出する予定です。これにより、登録事業の開始から概ね一通りの業務が一巡し、今後は、これまでの登録事業の成果をはじめ県民の皆様にご公表することとなりますが、この地域がん登録のデータをどのように活用していくかが、大きな課題になると思います。

5. 最後に

本県の地域がん登録事業は、業務の開始から4年目とまだまだ始まったばかりではありますが、医師会や医療機関の皆様のご協力により、事業が円滑に進捗していることを感謝申し上げますとともに、今後も、一層のご協力をいただければと考えております。

また、国立がん研究センターをはじめ関係する皆様におかれましては、今後も一層の精度向上が図られるよう、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

よろしくお祈りします



大分県応援団「鳥」めじろん